

おいでよ!地島に 漁村留学 をしてみませんか!

令和6年度（第22期） 「漁村留学生」募集のご案内

あなたは、海は好きですか？お魚は好きですか？小鳥は好きですか？もしそうなら、澄み切った青い海と空、緑の森に包まれた美しい島、ここ地島で漁村留学をしてみませんか？

そこには、慈愛に満ちた人情味あふれる島の人々（昔は「慈島」とも言われていたそうです。）との出会い、素晴らしく美しい自然との出会いが皆さんを待っています。

来年で22年目を迎える漁村留学は、豊かな自然、島の人々との心温まるふれあいを通して、子ども達の自然や地域の人々、そして家族への思いやりの心を育みます。また、共同生活体験を通して、親への感謝の気持ちを深め、ものの大切さを知り、たくましく、そして、自立する力を伸ばします。

留学に関する募集要項、島や学校の様子等を以下に記載していますのでご一読ください。心からお待ちしています。

《募集要項》

- 受け入れの条件
 - 体験を通して自立性を養おうとする健康な4・5・6学年（令和6年度）の男女児童
 - 児童（本人）、保護者の双方が漁村留学の趣旨をよく理解し、熱意があること
- 募集人員 5～6名程度
- 留学期間 1ヵ年（令和6年4月1日～令和7年3月31日）
- 委託料
 - 生活費として毎月4万5000円
 - 他に各学期3万9千円程度（学校教材・給食費2万9千円程度、医療・お小遣い等1万円程度）
- 募集期間 令和5年11月1日（水）～ 令和5年12月22日（金）
- 説明会 令和6年1月13日（土）予定 ※会場：宗像市立地島小学校
 - 地島小学校や「なぎさの家」（漁村留学センター）等の現地見学
 - 漁村留学に関する説明及び個別面談等
- 応募方法 右記「漁村留学を育てる会」事務局、または地島小学校までお電話ください。
受付後、詳しい資料等を郵送またはFAXします。
- 選考方法 応募者の多少に関わらず、選考委員会による厳正な選考の上、決定します。

主催 地島校区漁村留学を育てる会 後援 宗像市教育委員会

《宗像市と地島の紹介》

宗像市は福岡市と北九州市のほぼ中間に位置し、玄界灘に面した、文化や経済、交通の面において古くから大陸と日本を結んでいる要所です。世界文化遺産に登録された沖ノ島をはじめ、宗像大社、鎮国寺など歴史的な史跡も多く存在します。

地島は玄界灘と響灘の境に浮かぶ周囲9キロメートルの東西に長い島で、四季折々の鮮やかな色彩を映す山々があり、メジロ、ホトトギス、ウグイス、キジなど、鳥の宝庫でもあります。また、島内各所には約6000本のヤブ椿が自生し、春には美しい花を咲かせます。

現在、島の人口は約130名で、泊、白浜の2集落があり、ほとんどの世帯が漁業に従事しています。



《地島小学校の紹介》

泊港で市営渡船を降り、四季折々の草花あふれる県道を歩くこと約15分のところに、島で唯一の学校、地島小学校があります。令和5年度は2年生から6年生の3学級、児童数7名（漁村留学児童5名〈男子2名、女子3名〉を含む。）、職員数8名の小さな学校です。（令和5年10月1日現在）

地島小学校の教育目標は「人や社会とかかわりながら、学び続ける子どもの育成」です。その目標を達成するために、地島の自然・文化に学ぶ生活科・総合的な学習の時間（人と関わる・ものと関わる・ことと関わる）に取り組んでいます。また、異学年合同学習と少人数指導・個別学習を組み合わせ、「他者と関わりながらなりたい自分になる力」を育成しています。

学校では、地域・PTAとともに、安全に配慮しながら、島ならではの楽しい行事のほか、子ども達に豊かな自然・社会体験（魚釣り、魚さばき、地域交流等）を支援するための、多様な活動を行っています。

また、玄海中学校、玄海小学校、玄海東小学校とともに、「玄海学園」（玄海コミュニティ内の小学校）として、9年間を見通した小中一貫コミュニティスクールを推進しています。



《漁村留学センター「なぎさの家」の紹介》

泊港からすぐのところに、漁村留学センター「なぎさの家」があります。ここでは、子ども達のお世話をする指導員、寮母さんと一緒に、寝食をともにした協同生活を行います。「自分で出来ることは自分で、自分達で出来ることは自分達で」を基本方針にすえた規則正しい生活をしています。

応募・お問い合わせ先

「地島校区漁村留学を育てる会」事務局（なぎさの家）

○ 所在地 〒811-3511 宗像市地島136-13

○ TEL・FAX 0940-62-3394

※留守の場合及び昼間 宗像市立地島小学校（教頭まで）

○ TEL 0940-62-1171 FAX 0940-62-1911

